

製品名: MAPK10 マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM80648**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,ICC,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.03%アジ化ナトリウムを含む PBS。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	53kDa

抗原情報

遺伝子名	MAPK10
別名	JNK3; JNK3A; PRKM10; p54bSAPK
遺伝子 ID	5602.0
SwissProt ID	P53779
免疫原	大腸菌で発現したヒト MAPK10 (aa28-233) の精製された組み換え断片。

背景

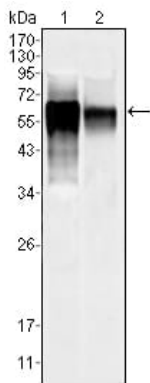
MAPK10: マイトジェン活性化プロテインキナーゼ 10。JNK3、JNK3A、PRKM10、p54bSAPK と呼ばれます。Entrez Protein NP_002744。MAP キナーゼファミリーの一員です。MAP キナーゼは複数の生化学シグナルの統合点として機能し、増殖、分化、転

写調節、発達など、様々な細胞プロセスに関与しています。このタンパク質は、c-Jun N末端キナーゼ (JNK) の神経細胞特異的な形態です。リン酸化と核局在を介して、このキナーゼは神経細胞のアポトーシスにおけるシグナル伝達経路の制御的役割を果たします。受容体制御性 MAP キナーゼの足場タンパク質である β アレスチン 2 は、MAP キナーゼキナーゼ 4 (MKK4) と相互作用し、このキナーゼのリン酸化を刺激することが分かっています。サイクリン依存性キナーゼ 5 は、このキナーゼをリン酸化してその活性を阻害することができ、これは神経細胞のアポトーシスの抑制に重要である可能性がある。異なるアイソフォームをコードする 4 つの選択的スプライシング転写バリエーションが報告されている。

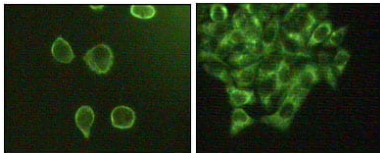
研究分野

TGF- β シグナル伝達経路、MAPK シグナル伝達経路

画像データ



NIH/3T3 (1) および SKN-SH (2) 細胞溶解物に対する MAPK10 マウス mAb を用いたウエスタンブロット解析。



メタノール固定した A431 細胞 (左) と HeLa 細胞 (右) の免疫蛍光染色。細胞質と膜の局在を示しています。